

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後
計画の柱1 家庭・地域、保育所(園)・幼稚園、学校、図書館における子どもの読書活動の推進と環境づくり					
1 家庭・地域	(1)ブックスタート事業の取組 (子育て支援課) 4か月児とその保護者を対象に絵本を手渡すことで、赤ちゃんの保護者が「温かくて楽しいひととき」を持っていただき、絵本に出会ったことを機会に心の成長に役立て楽しんでもらう。 (文化課) ・絵本を介して赤ちゃんに語りかける子育ての支援 ・生涯にわたる読書のスタートを切るきっかけとする	(子育て支援課) 事業では、ブックスタートの主旨や資料説明、初めて出会う絵本や図書館の紹介、読み聞かせや親子ふれあい遊びの実演を行っています。楽しい雰囲気を楽しみながら、親子で絵本への関心が高まるように促しています。 メディアと子どものよい関係づくりにおいては、グループワークなどを行いながら、メディアが子どもに促す影響について伝えています。また、初めて出会う絵本についての紹介や「読み聞かせ」も行い、読み聞かせの継続が、感性の育ちやコミュニケーション力等につながることを保護者に伝えています。 <u>しかし、R2年度につきましては、予約制・時間短縮をしながら事業を7月より進めています。</u> (文化課) ・家庭での赤ちゃんへのよみかかせの効果についての説明と、よみかかせを行う ・図書館利用案内、おはなし会や文庫活動の案内 ・図書館利用者カード作成のすすめ ・赤ちゃん絵本のリスト「ねえよんで」紹介 <u>※令和2年3月～6月まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のためブックスタート事業は中止。7月から再開。</u>	(子育て支援課) 初めて出会う本について、興味・関心を示される方が多くなり、絵本について詳しい情報を得たい保護者が増えています。 また、絵本の読み聞かせをする中で、乳児の表情が和らぎ絵本に目を向ける姿が見られるようになりました。その姿を見て、保護者も自然と笑みが出て、「絵本」を通して、一緒に心地よい時間を共有し過ごすことができています。 <u>しかし、R2年度はコロナウイルス拡大防止のため、事業が中止になったので、絵本は郵送対応にし、保護者と赤ちゃんの元に届くように努めました。</u> (文化課) ・ブックスタートで図書館のを知り、来館する保護者が多く見られる。 ・赤ちゃんおはなし会への参加にも繋がっており、好評である。	(子育て支援課) ブックスタート事業に参加してもらえよう、乳児家庭全戸訪問や保護者がサンコスモに来訪される時に周知し、参加できていない保護者には、再訪問を心がけ、一人でも多くの保護者のもとに絵本が届くように努めています。 (文化課) ・しかし就労などで引換が難しい保護者には、どのように配布するのがよいか課題です。 (文化課) ・家庭での読み聞かせを促す継続した取り組み	(子育て支援課) 今後も引き続き、乳幼児健診や乳児家庭全戸訪問等で周知の機会をとらえ、ブックスタート事業への参加を促し、親子で一緒に絵本に触れ楽しいひとときを持っていただけるように努めていきます。 絵本リスト等の活用をしていただき、絵本に興味や関心を高め、赤ちゃんおはなし会参加や図書館利用につながるよう取り組みます。 また、就労等により絵本の引換が難しい保護者にとって、受け取りやすい場所等の環境を整えたり、訪問や郵送対応をとおし、絵本を保護者のもとに届けられるよう努めていきたいと思ひます。 (文化課) ・赤ちゃんおはなし会等での家庭での赤ちゃんへの読み聞かせのすすめ ・赤ちゃん絵本の更なる充実
	(2)セカンドブック事業の取組 (文化課) <u>ブックスタート事業に続き、幼児の時期に家庭で絵本に親しめるよう、3歳児に絵本を一冊配付する。</u>	(文化課) <u>・子育て支援課による協力で、健診のお知らせと同時に対象者にセカンドブック事業を通知してもらう。</u> <u>3歳児健診会場または図書館で通知のプリントと引き換えに絵本とおすすめの本のリストを手渡す。</u> <u>・月ごとに転入児から対象者をリストアップし、セカンドブック事業の通知を郵送し、健診会場または図書館で絵本を手渡す。</u>	(文化課) <u>・健診に来たほとんどの子どもに絵本を手渡すことができた。絵本を選ぶときに家庭での読書の様子が窺えた。また、「家庭で絵本を読んで、ほかの絵本にも興味をわいて図書館に来た」と喜ばれた。</u> (子育て支援課) サンコスモで行われている3歳児健康診断のご案内資料に「セカンドブック」引換券を入れ送付し、健診当日に対象者の名簿と場所を提供している。	(文化課) <u>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月から図書館が休館、健診が中止になった影響で未配付の子どもが多数出ている。</u>	(文化課) <u>・休館中に絵本の給付期限が過ぎた対象者たちへの対応</u> <u>・今後も引き続き、幼児期の読書の習慣化を目指して全員への配付に努めていきたい。</u>

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1 家庭・地域	(3)つどいの広場事業の取組	(子育て支援課) 子育て中の親子の居場所や子育てに関する相談・情報提供を行い、育児不安や子育ての軽減を図る	(子育て支援課) ・絵本コーナーを設置し、親子で楽しく絵本に触れ親しめる環境を整備しています。 ・図書館のおはなし会や地域文庫の紹介・啓発をしています。	(子育て支援課) 「読書活動」の大切さを理解することで関心を持ち、家庭での絵本の読み聞かせにつながっています。また、図書館、地域でのおはなし会等の紹介、周知を図ることにより絵本への意識が高まっています。	(子育て支援課) でんでんむしを利用される親子が、絵本コーナーで絵本に触れる環境を整えてきました。しかし、絵本に興味・関心が薄い親子の姿もあるので、親子で楽しめるように絵本コーナーの充実を図っていく必要があります。	(子育て支援課) ・絵本コーナーの環境を整え、親子で絵本を楽しむ空間になるよう充実させていきます。 ・絵本を身近に感じ、保護者が子どもに日常的に読み聞かせや絵本の選択ができていくように、年齢や発達に応じたアドバイスや支援を引き続き行っていきます。
	(4)地域文庫の取組	(文化課) 身近に読書に親しめる場や機会を提供し、家庭・地域に根ざした地域文庫活動の普及を行う。 (あすなる文庫) 子ども達が本との出会い、読書の楽しさを伝え、また区の人達と交流できるふれあいの場を目指します。	(文化課) ・図書館から配本(年3回、上限300冊まで)や大型絵本、パネルシアターなどを借り、読み聞かせや貸出し等を行う。 ・地域や育成会などと共催でのイベントの開催など。 (あすなる文庫) 4月新入生歓迎会、7月七夕会、8月夕涼み会、11月3丁目文化祭、12月餅つき大会、2月ウォーキング大会(参加予定)	(文化課) ・地域文庫の継続した活動により、家庭や地域の読書の充実が図られた。 (あすなる文庫) 公民館活動に参加し、地域の行事に貢献しています。子ども達の要望を取り入れ、親しまれています。	(文化課) ・行事での子どもの参加は多いが、普通の日の参加が少ない。 ・本を借りる子どもが少ない。 ・スタッフの増員 (あすなる文庫) 子供会育成会と行事に参加していますが、育成会の入会、参加が少なくなり、子ども達の人数が年々減少しています。 (しらすぎ文庫) イベントには子どもが集まるが、日常活動にはあまりこない。	(文化課) 事業の継続 (あすなる文庫) 公民館利用の折は、貸出ノートを作り、大人の方も自由に借りることが出来るようにしています。
	(5)学童保育所の取組	(文化課) 学童保育所での読書に親しむ環境づくりをすすめる。	(文化課) ・図書館から団体貸出(図書・大型絵本・パネルシアターなど)を受け、読み聞かせ等を行う。	(文化課) ・団体貸出により学童保育所での読書活動の充実が図られた。 令和元年度 1,184冊	(文化課) スペースの問題があり、落ち着いて読書ができる環境ではない。	(文化課) 事業の継続
	(6)「放課後子供教室(アンビシャス広場づくり)事業の取組	(青少年育成課) 地域全体で、子どもを育む「アンビシャス広場づくり事業」において、物づくりや、本の読み聞かせなど様々な活動が行えるよう、子どもが本に親しむ環境づくりを支援する。	(青少年育成課) 千鳥チャレンジ・アンビシャス広場、舞っ子アンビシャス広場での「ボランティア団体との協働」により物づくり、本の読み聞かせの活動を行った。	(青少年育成課) ボランティア団体との協働により、「本の読み聞かせ」とおし子ども達が本に親しむ環境の整備ができた。	(青少年育成課) 各広場での活動内容や活動の実施場所の条件が異なることから、読書活動の幅が広がりにくい。読書活動を広げる具体的な工夫が必要。	(青少年育成課) 千鳥チャレンジ・アンビシャス広場、舞っ子アンビシャス広場での「読書活動」実施状況を、他のアンビシャス広場へ情報共有し、普及させたい。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後	
1 家庭・地域	(7)地域コミュニティ活動の取組	(文化課) 地域のコミュニティで行政区ごとの世代間交流や子育て支援を行う団体が読書活動を行う (花見東2区子育てサロン「おんぶらーじゅ」) ・未就園児がいる親と子のサロン 親同士、子ども同士の交流、情報交換の場 (花見東1区福祉会) おひざDEだっこ ・0.1.2歳の赤ちゃんと保護者への赤ちゃんおはなし会	(文化課) ・図書館は紙芝居や読み聞かせ等の読書活動ができるよう団体貸出などの支援を行っている。 ・読書ボランティア団体の協力で読み聞かせやわらべ歌を楽しんでいる団体もある (花見東2区子育てサロン「おんぶらーじゅ」) ・毎月第4木曜日10時～12時までの2時間、花見東2区公民館にてサロン活動。遊具・絵本を置き、親子で自由に過ごす。 ・年3回、「古賀子どもの本の交流会」草野さんによるおはなし会。 ・令和元年9月に出前講座「子どもの成長について」を開催する。 (花見東1区福祉会) ・絵本の読み聞かせ、わらべうたあそび、絵本の貸出し	(花見東2区子育てサロン「おんぶらーじゅ」) ・読んでほしい本を置いているので、手に取って自由に親が子に読んであげている。 ・年に3回のおはなし会だが、たっぷりと絵本を楽しんでいる。 (花見東1区福祉会) 参加者が少なく、休止	(文化課) 団体登録されていないグループの活動を把握することが難しい。 (花見東2区子育てサロン「おんぶらーじゅ」) ・年齢層がバラバラの為、毎月の読み聞かせの選本が難しく、やれていない状況にある。 (花見東1区福祉会) ・福祉会の連携	(文化課) 読書活動をすすめるボランティア団体と協力しながら公民館などのグループの読書活動が広がるよう支援していく。子育て情報誌などで活動の把握に努める。 (花見東2区子育てサロン「おんぶらーじゅ」) ・現在、コロナウィルスの感染拡大のため、令和2年2月～8月現在、サロンを休んでいる。今後も感染状況を考慮しながら再開していく予定である。 (花見東1区福祉会) 新型コロナウイルスのこともあり、中止状態
	(8)児童館の取組	(青少年育成課) 児童館の図書室等を充実し、利用促進を図る。	(青少年育成課) ・市内3児童館において、図書の充実を図った。(新刊の購入と図書館の図書の譲受) ・乳幼児事業実施の際、乳幼児とその保護者に対し「本の読み聞かせ」を行なった。 ・3館合同乳幼児事業において、講師を迎えての「読書活動」を行った。 ・米多比児童館館内「コスモス文庫」との協働による本の貸出を実施(乳幼児とその保護者に対し実施)	(青少年育成課) ・図書が充実したことで、図書室・図書コーナーの利用が増えた。 ・乳幼児とその保護者に対し「本の読み聞かせ」を行うことで「本と親しむきっかけ」ができた。 ・米多比児童館「コスモス文庫」での乳幼児の保護者の活用が増加した。	(青少年育成課) ・児童館での「読書活動」への取組に具体的な工夫が必要と考える。(本の紹介方法、見せ方(配架の方法)、小学生に対しても読み聞かせの時間をとるなど)	(青少年育成課) ・児童館を利用する子ども達、乳幼児とその保護者が本に触れる機会が増えるよう「読み聞かせ」「おはなし会」を継続し充実を図りたい。 ・米多比児童館「コスモス文庫」の活動を、他の児童館に展開を図りたい。
	(9)子ども体験活動事業の取組	(青少年育成課) 様々な体験活動の機会を提供する中で、地域やボランティアと連携して子どもを読書活動に導く。	(青少年育成課) 古賀市子どもわくわくフェスタにおいて、古賀市内の読書ボランティア団体と古賀市中学生読書サポーターによる読み聞かせを実施する。	(青少年育成課) 「読み聞かせ」の活動を通して、読書ボランティアと古賀市中学生読書サポーターとの連携を図り、参加する子ども達、乳幼児とその保護者に対し本に触れる機会の提供などの読書活動に導くことができた	(青少年育成課) 古賀市子どもわくわくフェスタで、子どもの本の交流を行うことで読書活動の啓発を行いたい。	
	(10)家庭・地域教育支援事業の取組	(生涯学習推進課) ・家庭教育ひろば 小中学生の保護者を対象とした思春期講座 ・市内中高生を対象としたSDGs啓発及び食育研修	(生涯学習推進課) ・家庭教育ひろば 令和2年度も継続予定 ・市内中高生を対象としたSDGs啓発及び食育研修 平成31年度に初回実施、令和2年度以降も継続予定	(生涯学習推進課) アクティブな講義と参考図書の提供で保護者の体系的な理解を深めることができた。 学校での学習と合わせ、現場見学と実践、参考図書の提供で生徒の体系的な理解を深めることが出来た。	(生涯学習推進課) 受講者層の絞り込み 受講者の拡大	(生涯学習推進課) 広範な周知 学校との連携

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
幼2 稚 園 保 育 所 (園) ・	(1)本の読み聞かせの継続 (2)図書スペースの確保と充実 (3)保護者へのはたらきかけ	(文化課) 保育所(園)・幼稚園で行われる読書活動をすすめるため、図書スペースの確保と充実を図る。	(文化課) ・図書館から団体貸出し(図書・大型絵本・パネルシアターなど)をする。	(文化課) ・団体貸出しにより、保育所(園)・幼稚園での読書活動の充実が図られた。 ・団体貸出しの冊数 平成30年度 1646冊 令和元年度(4月～2月)1599冊		(文化課) 事業の継続
3 学 校	(1)学校図書館の運営					
	(2)読書指導・読書活動の充実					
	(2)読書指導・読書活動の充実					
	(3)読書関連行事の実施					
	(4)学校図書館間ネットワークの活用	(文化課) 30年度で時事業終了 (学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校教育課) 平成31年度から学校図書館ネットワークシステム(e-slip)の事務が学校教育課に移管された際に、あまり利用されていなかった契約内容を見直したため、市立図書館及び学校図書館間の横断検索ができなくなりました。については、図書館と学校および学校間のネットワークシステムを利用したこの事業を終了しました。			
	(5)広報活動の充実					
	(6)図書館資料の充実	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する。	(学校教育課) 学校図書館図書標準を基に学校図書館が資料数や内容ともに充実したものになるよう、予算確保に努めている。	(学校教育課) 学校図書館図書標準を基に学校図書館が資料数や内容ともに充実している。		(学校教育課) 継続
	(7)学校図書館の環境整備					
(8)読書感想文・読書感想画の取組						

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学校	(9)親子読書会の推進		<p>(青柳小親子読書会) ・4月以降の活動はコロナ対策のため現在は行っていません。</p> <p>(古賀西小親子読書会) ・今年度は任意の団体として活動する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在のところ活動していません。</p> <p>(千鳥小親子読書会) ・活動していません。</p> <p>(花見小親子読書会) ・外部の利用者の入館を制限しているため、活動されていません。</p> <p>(舞の里小親子読書会) ・活動していません。</p>			<p>(青柳小学校親子読書会) ・昨年度の加入者に対して図書の出し納しなどをおして家で親子で行えるような活動ができればと考えています。</p> <p>(古賀東小親子読書会) ・状況を見ながら、感染症対策徹底の上、9月より活動予定です。</p> <p>(千鳥小親子読書会) 活動の予定はありません。</p> <p>(花鶴小親子読書会) 活動の予定なし</p> <p>(花見小親子読書会) 活動の予定なし</p>
	(10)学校図書館の地域開放	(学校教育課) 学校図書館の「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能に、地域住民が集う場としての機能を加え、生涯学習に貢献するとともに地域力向上を図る	(学校教育課) 平成29年度から市立図書館の一般図書を定期的に貸し出してもらった図書を、各学校図書館に設置したコーナーにおいて市民に提供している。平成31年度も継続して行った。平成31年度末から、新型コロナウイルス感染拡大により学校図書館の地域開放活動は中止している。	(学校教育課) 地域の方が気軽に立ち寄るなど開放したことの成果がでている。	(学校教育課) 令和2年度は活動を中止する予定であるが、再開後は、利用しやすくなるよう工夫改善しながら、また図書館開放の周知について継続して行っていきたい。	
	(11)適応指導教室の取組	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心を高め読書習慣の定着を図り、読解力や表現力を育成する	(学校教育課) 平成31年度においては、学習活動の一環としてほぼ毎月1回、直接、市立図書館に行き、児童生徒で本を選ぶことで、読書習慣の定着や、読解力や表現力の育成を図った。 新型コロナウイルスの感染拡大により、平成31年度末から8月までは、市立図書館での活動は行っていないが、適応指導教室にある図書にて読書習慣の定着や、読解力や表現力の育成に努めた。	(学校教育課) 読書習慣が身につくにつれある子ども見受けられるようになった	(学校教育課) 特に中学生には、本人のキャリアにつながるような選本の能力を身に付けることが課題である。	(学校教育課) 継続
	(12)高等学校の取組	(文化課) 子どもの豊かな読書に資するため、高等学校との連携を深める	(文化課) ・古賀成成館高等学校:インターンシップ(就業体験)の受入れ(31年度実施、R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止) ・玄界高等学校:図書委員会生徒によるおはなし会を計画していたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止(R2年度)	(文化課) インターンシップを通して、図書館の持つ機能と必要性、利用方法を伝えることができた。	(文化課) ・高校生を含めた10代利用者の少なさ ・学校との連携	(文化課) ・事業の継続(インターンシップ等) ・玄界高等学校図書委員会との連携によるおはなし会の開催

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3	学校 (13)特別支援学校の取組	(文化課) 子どもの豊かな読書に資するため、特別支援学校との連携を深める	(文化課) ・団体貸出し ・読書ノート配布おはなし会 ・図書館見学の実施(小・中学部)	(文化課) ・継続的な団体貸出し(小・中学部、高等部合算) 令和元年度 358冊 令和2年度(4月～8月)7冊	(文化課) ・学校との連携	(文化課) ・事業の継続
4	図書館 (1)「おはなし会」や「図書館まつり」の実施	(文化課) 読書関連行事を通して、読書意欲の向上に努める	(文化課) 令和元年度 ・どようおはなし会(毎週土曜日 11:00～11:30) ・赤ちゃんおはなし会(月1回2部制) ・小さい子のおはなし会(月1回) ・小学生むけおはなし会(年3回実施) ・子ども映画会(年6回) ・おはなし会スペシャル ・図書館まつり ぬりえコンテスト、図書館クイズなど 令和2年3月～9月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためすべての子ども向けイベントを中止中	(文化課) ・就学前の子どもが年齢に合わせた読書活動に継続して参加できた。 おはなし会スペシャルでは、各地域文庫の方が工夫を凝らし多様なプログラムで、参加者がとても楽しんでいた。	(文化課) ・各行事に参加する子どもの低年齢化。 平日開催行事において一昨年度よりも参加者が減少しているように見受けられる。(小さい子のおはなし会、子ども映画会等)働く親の増加など、参加者の実態にあわせた時間・日時の再検討が必要では。	(文化課) ・事業の継続
	(2)乳幼児と保護者への支援	(文化課) ・家庭で読書に親しみ、子どもが健やかに成長できるよう、成長に応じた資料を十分に揃え、わかりやすく提供する。 (子育て支援課) 七ヶ月っこ広場・1歳誕生広場、2歳元気っ子) ・子育て中の親子の居場所や子育てに関する相談・情報提供を行い、育児不安や子育ての不安の軽減を図る。 ・各年齢の発達を知り、親子で触れ合い楽しいひと時を過ごす。 (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) ・赤ちゃん、保護者を対象としたおはなし会	(文化課) ・赤ちゃんおはなし会、小さい子のおはなし会の実施 ・乳幼児向けのおすすめの絵本絵本コーナーの設置(赤ちゃん向け、小さい子向け、幼児向けおすすめ絵本) (子育て支援課) ・各事業、子ども達の発達や栄養について伝えた後、親子ふれあい遊び・絵本の読み聞かせを行っています。 (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) ・図書館の赤ちゃんおはなし会で ○読み聞かせ ○手遊び ○わらべうた	(文化課) ・展示している本がよく借り出されている。子どもを連れてお父さんが本を選ぶ姿がよく見られる。 ・乳幼児からの利用登録が定着している。 (子育て支援課) 親子でホッとできる共有した空間の中で、絵本に触れ合う楽しいひと時を過ごすことができています。絵本の読み聞かせになると、保護者の膝にちょこんと座りお話を耳を傾ける体制になります。にこにこ笑ったり、声をあげて楽しさを表現する子どもの姿を目の前を見ると、保護者の表情も和らぎ、親子で楽しむ時間が持てるようになりました。しかし、R2年度につきましては、コロナウイルス拡大防止のため、7月まで事業が中止になりました。 (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) 赤ちゃん、保護者が絵本に興味を持ったり、遊びを通して親子の成長の手助けになっている。	(文化課) ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、おはなし会の中止が続いている。ゆっくりと本を選んだり、本を読んで過ごすことが難しくなっている。 (子育て支援課) 授乳や泣きぐずりが気になり、母親が事業に集中しづらい状況が時折あるので、そっと寄り添ったりしながら、親子がリラックスできるように努めていきたいです。 今年度は、コロナウイルス拡大防止のため事業も休止となり、各事業は8月から予約制をとります。 (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) コロナ禍で活動が休止になっている。	(文化課) ・家庭で読書を楽しめるよう、手に取りやすい書架づくりを心掛ける。 ・おはなし会の再開 ・今後も乳幼児期の読書の大切さが伝わるよう、制限がある中でも読書相談に応じるなど支援を続けたい。 (子育て支援課) 引き続き、今後もさらに親子で楽しんでいただけるように環境を整えていきます。 (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) 未定

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
4 図書館	(3)読書ノート事業の取組	(文化課) 小学1年生を対象として、どくしょノートをきっかけに市立図書館への来館および利用を促す。読書の楽しみを知らせ、豊かな心を育てる。	(文化課) 令和元年度は市内小学校1学年児童全員へ「どくしょノート」を配付した。図書館職員が出向き、おはなし会を行い、どくしょノートを手渡す活動を行った。 特別支援学校にも訪問し、どくしょノートを配布することができた。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校への訪問が難しく、配付方法未定。	(文化課) 各小学校からの反応もよく、また来てほしいとの意見が多かったので、毎年、行っていきたい。	(文化課) 転入生用に少し多めに配付しているが、実際手渡せているか把握できていない。	(文化課) ・配布後、図書館にどくしょノートを持ってきて、読書シールを希望する児童の姿が見られた。事業を継続して行いたい。
	(4)「古賀市中学生読書サポーター」の取組	(文化課) 読書の楽しさ、大切さを周りに伝える読書サポーターの育成	(文化課) 平成元年度は夏季休業中に全3回の読み聞かせ講座を行った。図書館⇒「どようおはなし会プラス」にて小学生むけおはなし会。地域⇒「子どもわくわくフェスタ」おはなしの部屋に参加。 ・各中学校では、おすすめの本のコーナーづくり、POPづくり等の活動を行った。 中学生読書サポーター事業は5年間継続し、令和元年度で終了しました。	(文化課) 中学生読書サポーターの実践を重ね、回を重ねるごとに自信をつけ、大きなはっきりした声で読み聞かせやわらべ歌を演じることができるようになった。 学校で自主的に読書の楽しさを伝える活動をはじめているサポーターがいる。	(文化課) ・中学生読書サポーター事業の参加者が募集6名に対し応募が4名と少なく、広がりがなかなかみられなかった。個人としての成長は見られたものの、もっと自ら活動の幅を広げることができるよう支援することができないか。	(文化課) 公共図書館のYA(13歳～19歳)サービスの対象者は、中学生から高校生・大学生と幅広い。今後は養成した中学生読書サポーターの活動の場を継続しながら、市内の高校・大学との連携を含め、今後のYAサービスを模索したい。
	(5)特製コーナーの設置	(文化課) ・子どもの発達段階や興味関心、テーマによる特設コーナーを設けることにより、図書の利用の促進を図る ・子ども(10代)の知的活動を推進し、多様な興味・関心に応える	(文化課) ・12～18歳対象のYAコーナーの見直し、拡充 ・読書感想文課題図書・読書感想画指定図書コーナーの設置 ・関連図書の充実と隣接した閲覧スペースで、利用を促進 ・おすすめの本のコーナーの見直し	(文化課) YAコーナーを拡充することにより、読書に関心のある中学生・高校生の読書意欲を喚起し、より本を選びやすい環境を整えることができた。	(文化課) 対象の利用が少ない	(文化課) 事業の継続
	(6)子どもへの学習活動支援の充実	(文化課) 子どもの読書活動を推進するため、学校への調べ学習資料の充実や、来館した子どもへのレファレンスサービスを行う	(文化課) ・学校の授業に対応できる調べ学習のための図書館資料の充実 ・自由研究図書コーナーをはじめとした子どもへのレファレンスサービスなどの充実		(文化課) どの学校も教科を同じ時期に学習するため同時期に同じ内容を調べる子どもが多く対応に苦慮する	(文化課) 事業の継続
	(7)障がいのある子どもや来館困難な子どもへの支援	(福祉課) 古賀市障害者移動支援事業 ・屋内での移動に困難がある障がい者および障がい児について、外出のための支援を行うことにより、地域における生活を支援し、自立と社会参加の促進を図る。 (文化課) 障がいのある子どもや来館困難な子どもが、読書を通して視野を広げ、知識を得ることができるよう支援する。	(福祉課) 古賀市と契約を結ぶヘルパー事業所に委託し、生活上不可欠な外出及び余暇活動等の社会参加のため外出の支援を行った。 (文化課) 適応指導教室「あすなろ教室」や特別支援学校等の児童生徒が、読書を通して視野を広げ、知識を得ることができるよう支援する。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、あすなろ教室の児童生徒は来館できていない。	(福祉課) 具体的な件数は把握していないが、本事業を利用して、障がいのためひとりでは来館困難な子どもを支援することができる。 (文化課) 定期的に、各団体の貸出しを行っている。「あすなろ教室」の生徒は、来館し自ら借りる資料を選ぶなどの活動もしている。(令和元年度)	(福祉課) 事業の周知 (文化課) 個人で来館できない子どもへの支援	(福祉課) 外出支援のため、引き続き移動支援事業を行う。 (文化課) 事業の継続 生徒同士のコミュニケーションのツールや情報収集の手段として団体貸出しなどを行い、支援していく。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後
計画の柱2 図書館間及び子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携・協力に向けたネットワーク化					
1 図書館間の連携と協力	(文化課) 子どもの読書活動を推進するため、他館と図書資料の相互貸借や情報収集を行う	(文化課) ・他館との資料の相互貸借 ・福岡県図書館情報ネットワークシステムへの参加 ・福岡県公共図書館協議会等での情報収集	(文化課) 学校や読書ボランティアからの依頼に応えることで、子どもの学習活動の充実や読書推進につながっている		(文化課) 事業の継続
2 子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携と協力	(1)図書館等と学校 (文化課) 学校教育の支援と児童・生徒の読書の推進をはかる。	(文化課) ・校長会での趣旨説明、利用の呼びかけ ・小学1年生に読書ノート配付(令和2年度は配布方法未定) ・小中学校の図書館見学受入 ・団体貸出 ・中学生読書サポーター養成 ・小学生むけおはなし会実施	(文化課) ・読書ノートを配付することにより、小学生が図書館に来るきっかけができた。 ・学習の支援ができた。 ・職員が直接小学生にはたらきかける機会が持てた。	(文化課) ・学校司書のとりまとめをされる学校教育課指導係と連携しながら支援に努めること	(文化課) ・引き続き学校や学校司書と情報交換を増やす。 ・活動内容の精査
	(2)図書館等と家庭・地域 (文化課) ・家庭読書の推進と普及 ・地域の読書推進	(文化課) ・ブックスタート事業への参加、セカンドブックの実施 ・出前講座 ・地域文庫への団体貸出し(令和2年度3月から文庫活動が中止) ・地域文庫連絡会の実施(令和2年度は中止)	(文化課) ・ブックスタート事業やセカンドブック事業が、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、他課と連携して実施されていること。 ・館内に乳幼児を連れた親子連れがよく見られること。 ・0～6歳の登録者人数 平成31年度 161人 ・0～6歳の貸出冊数 平成31年度 23,876冊 ・児童書貸出冊数 平成31年度 125,303冊	(文化課) ・各課の理解を得て連携しながら、家庭読書の推進や地域の読書活動推進に努めること。 ・休館や事業の中止によって、子どもの読書活動が中断したこと。	(文化課) ・中断している事業の再開(未定)

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後
2 子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携と協力	(3)図書館等と読書ボランティア団体 (文化課) ・子どもを対象とした読書ボランティア団体へ知識や技術の向上のための講座や研修会を開催し、活動の活性化に向けて支援する。 ・読書ボランティア団体に協力を求め、読書活動の活性化につながる取組を連携して行う。 (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) 赤ちゃん、保護者を対象としたおはなし会 (小さい子のおはなし会) 小さい子(1～3歳)を対象とした読書普及活動 (布の絵本つくしんぼ) 布の絵本、タペストリーを通し、布の暖かさ、手作りのぬくもり、やさしさをおして心が結ばれることを願っています。	(文化課) ・団体貸出(図書・大型絵本・パネルシアターなど) ・読書ボランティア養成講座の開催 ・図書館や他団体で開催される読書講座やイベントなどの情報提供 ・読書ボランティア団体交流会の開催 ・おはなし会(どよう・赤ちゃん・小さい子)のボランティア ・令和元年度、令和元年度「中学生読書サポーター講座」の講師 (こが語りの会) ・市立図書館主催のどようおはなし会(第1土曜) ・おはなし会のプログラム決めと勉強会 ・講師を招いてストーリーテリングの勉強会(年1回) (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) ・図書館の赤ちゃんおはなし会で・読み聞かせ、手遊び、わらべ歌 (小さい子のおはなし会) ・開催日:毎月第3水曜日 11時～11時30分 ・会場:こがめルーム 1歳～3歳児とその保護者を対象に絵本の読み聞かせやわらべ歌などを行っている。 (布の絵本つくしんぼ) 布の絵本制作 ①びよーん ②ぼくのまちわたしのまち ③なにしてあそび ④おおきなかぶ ⑤いただきますあそび その他 ①中学生読書サポーター用 ワッペン りんご型 ②おはなし会用 りんご	(文化課) ・継続した支援により、読書ボランティア団体の活動の充実が図られた。 ・読書ボランティア団体交流会の開催により、図書館やボランティア間の交流が深められた。 ・読書ボランティア団体との連携により、読書活動の活性化が図られた。 (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) 赤ちゃん、保護者が絵本に興味を持ったり、遊びを通して親子の成長の手助けになっている。 (小さい子のおはなし会) 「赤ちゃんおはなし会」から引き続き、来てくださる親子もいて、絵本の世界が広がっているように思う。繰り返し行うわらべ歌は、保護者も覚えて一緒に歌って楽しんでいる。 (布の絵本つくしんぼ) 作品等を楽しんでいただいています。	(こが語りの会) 高齢の会員が半数近くいて、今後若い会員が増え30年近く続いてきた活動が未永く継続すること。 (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) コロナ禍で活動が中止になっている。 (小さい子のおはなし会) 母親の職場復帰、または他所の行事と重なったりして参加者が減少している。 (布の絵本つくしんぼ) 養成講座の開催が出来る事。	(文化課) 事業の継続 ※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため「読書ボランティア団体交流会」は中止 (こが語りの会) ・読書講演会や研修会への参加 ・講師を招いての勉強会(特にストーリーテリング) (赤ちゃんおはなし会「ピヨピヨ」) 未定 (小さい子のおはなし会) 不特定の聞き手なので、プログラム等、臨機応変に対応できるように、会員の絵本、わらべ歌に関するスキルアップをしていく。 (布の絵本つくしんぼ) ・地域のむかしばなしオリジナル制作 ・布の絵本ならではの動きがある絵本の制作
(4)図書館等と保育所(園)・幼稚園	(文化課) 保育所(園)、幼稚園での子どもの読書活動を支援する	(文化課) ・団体貸出(図書・大型絵本・パネルシアターなど) ・図書館で開催する読書講座やイベントなどの案内送付 ・「こがめルーム」でのおはなし会の受け入れ	(文化課) ・団体貸出により、保育所(園)・幼稚園での読書活動の充実が図られた。 ・新設された保育所の団体登録が増えている。		(文化課) 支援事業の継続
(5)学校と家庭・地域					

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後
2 子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携と協力	(6)学校と読書ボランティア団体 (文化課) 学校での読書活動に読書ボランティアを活用し、子どもの読書の意欲を高める。 (古賀東小学校ぐりとぐらの会) 朝読・昼読・授業中のおはなし会 子ども達にとって本は楽しさ、喜び、悲しみ、想像力を育ててくれます。絵本は自分で読むのも楽しいけれども、人に読んでもらう心地良さも大いにあります。朝の読書タイムで1冊でも多くの本に出逢えるようにと願い活動しています。授業中のおはなし会では、長い絵本や児童書など朝読ではできない事を盛り込んだプログラムにしています。 (小さな野原の会) 小野小学校朝読書ボランティア 小学校の朝読書の時間に、絵本の読み聞かせをすることにより、読書の楽しさを子ども達に伝える。 (舞小ぐるんば読み聞かせの会) 子ども達に本を親しんでもらう。 (こが語りの会) ・子ども達に昔話(人類の英知の結晶といわれている昔話に込められた人々の思いや祈り)を伝える。 ・人の声の温かさや言葉の心地良さを感じてもらうため、生の声で読み、語る。	(文化課) ・朝の読書の時間や読書週間、フェスタなどでの読み聞かせなど (古賀東小学校ぐりとぐらの会) ・週1回全学年朝の読み聞かせ(火曜:4・5・6年、水曜日(1・2・3年) ・毎週月曜日昼休み和室にて昼読 ・年1回授業中のおはなし会 ・東小フェスタでの絵本読み聞かせマラソン (小さな野原の会) ・平成31年度 4～2月 毎週火・水曜8:35～8:45 小野小学校朝読書の時間に絵本の読み聞かせ、ミニブックトークをする。 1・2年生は毎週、3～6年生は月に1回 ・令和2年3～8月 コロナウィルスのため活動停止 (舞小ぐるんば読み聞かせの会) ・平成31年度(2月まで) 月に2回(木)朝の読み聞かせの時間を10分間(8:35～8:45)設け、保護者の読書ボランティアが季節の本など各学年に絵本の読み聞かせを行っています。 読み聞かせ終了後の30分間、反省会や勉強会を行うことを計画しています。 ・令和2年4月～ 活動中止中 (こが語りの会) ・青柳、花鶴、古賀西、千鳥、舞の里小学校でのおはなし会(授業時間に1クラスずつ、全学年) ・古賀中、古賀東中の朝の読み聞かせ(ストーリーテリング、詩、絵本、本の紹介) ・古賀特別支援学校でのグループ毎のおはなし会(令和2年4月～8月)コロナの為、学校等無し。	(文化課) 読書ボランティア団体の活用により、学校での読書活動の充実が図られた。 (古賀東小学校ぐりとぐらの会) ・小学生・幼稚園児ともに楽しみにしてくれている。 ・おはなし会にて紹介した絵本・児童書など、良く借りて読んでくれている様子(司書の先生談) ・昼休みの昼読は、悩んでいる子どもや居場所としている子どもが数人おり、大切な場所と感じる。 (小さな野原の会) 子ども達は静かに読み聞かせを聴き、楽しんでくれている。読書を楽しみ、自分でも読んでみる意欲も引き出せていると思う。 (舞小ぐるんば読み聞かせの会) 読み聞かせをすることによって、本に関心を持ってもらえた。 (こが語りの会) おはなし会後、紹介した本を求めて学校図書館や市の図書館に出かけていく子たちが多くいるようです。また、中学校の先生から「朝のおはなし会の後は、子ども達がすーっと授業に入っていくのを感じます」とのこと。心が落ち着くのでしょうか。	(古賀東小学校ぐりとぐらの会) 在学児童の保護者が2名と少ないので、会員が増えることを望んでいる。フェスタ等で実演しているが、なかなか増えない。 (小さな野原の会) コロナウィルスのため、活動停止になっているので、学校からの許可が出ればすぐに再開したい。 (舞小ぐるんば読み聞かせの会) ボランティアの人数が減ってきている。	(文化課) 事業の継続 (古賀東小学校ぐりとぐらの会) ・コロナで活動できていない(学校に立ち入り禁止)のでこの期間を使い、各自研鑽にはげんでいる。 ・学校の方へは、給食時間に校内放送で読み聞かせやストーリーテリングをしたいと提案してみたが、まだ返答されていない。(他自治体では放送読み聞かせが実施されている) (小さな野原の会) コロナウィルス感染予防の対策として、マスク着用、手の消毒をして再開したい。絵本だけでなく、詩、なぞなぞ、短編読み物なども取り入れたい。 (舞小ぐるんば読み聞かせの会) 10月より月1回活動予定。 (こが語りの会) ・今後も小・中学校、支援学校、市立図書館でのおはなし会を中心に活動。
(7)学校と保育所(園)・幼稚園					

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
関2 、 団 子 体 ど も の を 対 象 と し た 読 書 活 動 推 進 機	(8)家庭・地域と読書ボランティア団体	(文化課) 家庭や地域での読書活動に読書ボランティア団体を活用し、読書活動の充実や推進を図る。	(文化課) ・地域文庫活動 ・読書ボランティア団体によるおはなし会など	(文化課) 地域文庫や読書ボランティア団体の活動により、家庭や地域での読書活動の充実や推進が図られた。		(文化課) 事業の継続
	(9)家庭・地域と保育所(園)・幼稚園					
	(10)保育所(園)・幼稚園と読書ボランティア団体		(古賀東小学校ぐりとぐらの会) ・久保保育園にて年2回のおはなし会(6月、2月)			
計画の柱3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及						
1 総 合 的 な 子 ど も の 読 書 活 動 の 推 進	(1)広報活動の促進	(文化課) 子どもの読書活動の総合的な推進のため、子ども及び子どもを取り巻く大人たちが、読書の重要性を改めて認識できるよう啓発活動を行う	(文化課) ・「図書館ホームページ」の随時更新 ・「広報こが」「行事予定表」「市ホームページ」「教育委員会フェイスブック」や地域情報誌へのポスター、案内文書の掲載	(文化課) 事業を適切に広報することにより市民の関心を高め、参加者を集めることができた	(文化課) 「図書館ホームページ」の更なる充実	(文化課) ・「図書館ホームページ」の随時更新 ・「広報こが」「行事予定表」「市ホームページ」「教育委員会フェイスブック」や地域情報誌へのポスター、案内文書の掲載
	(2)「子ども読書の日」の啓発広報活動	(文化課) 子ども読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める。	(文化課) 4月23日の子ども読書の日を中心に、おはなし会や読書講座等多様な講座を企画している。 ※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、図書館が休館となり、計画していた事業も中止となった。	(文化課) 毎年多くの参加があり、親子で子どもの読書について理解を深めたり、関心を持つ良い機会となっている。	(文化課) 幼児の参加が多く、小学生が少ない。	(文化課) ・イベントの内容の精選 ・読書ボランティア団体の協力
	(3)「家庭読書の日」の設定	(文化課) ・曜日や日にちを設定することによって、家庭読書の意義を広く理解し、市民が読書に親しむ習慣を作る。	(文化課) ・検討中			

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後	
1 総合的な子どもの読書活動の推進	(4)子どもによる自主的な読書活動の取組	(文化課) 子ども同士で自主的に情報交換の場や活動の場を設け、読書活動に取り組めるよう支援する	(文化課) 令和元年度は中学生読書サポーター事業として読み聞かせ講座を行い、読書サポーターによる夏休み小学生むけおはなし会を実施することができた。5年間実施し、一定の効果を得られたため、中学生読書サポーター事業は終了した。 令和2年度は玄界高等学校図書委員会による幼児向けおはなし会を企画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	(文化課) 学校における読書習慣の定着と読書環境の充実を担う古賀市中学生読書サポーターを養成し、子ども同士で読書の楽しさを伝え合う活動を行うことができた。	(文化課) 学校や地域でのさらなる活動の場の提供をうながす	(文化課) 今後はさらに幅広く、中学生、高校生が図書館で活躍できる場の提供を考えながら、子どもが学校や地域、家庭で周りの子どもに自主的に読書の楽しさや大切さを伝える取組を工夫して行えるよう支援していく。
	(5)学校職員等の取組	(文化課) 児童・生徒の読解力を高める読書指導、情報処理能力を身につけるための調べ学習を指導する学校職員への支援	(文化課) ・校長会での利用のお願い、呼びかけ ・読書指導、調べ学習のための資料の貸出し	(文化課) 団体貸出により、調べ学習等への支援が行えた。	(文化課) ・必要な資料の確保 ・同時期に必要な資料が重なった場合への対応	(文化課) ・司書教諭、学校司書が取りまとめた年間の調べ学習・読書指導計画に沿った資料の提供 ・司書教諭・学校司書と情報交換、連絡がとれるよう司書研修会への定期的な参加
	(6)読書推進活動の奨励	(文化課) 読書ボランティア団体のこれまでの優れた活動に対し、表彰などに推薦し、長年の活動をたたえとともに、今後の活動の意欲を高める。		(文化課) ・あすなる文庫 コミュニティ推進課主催「令和元年度 輝き☆KOGAびと」受賞(花鶴丘3丁目区長推薦による)		(文化課) 事業の継続
	(7)推薦図書を紹介	(文化課) 子どもの発達段階に応じた図書の紹介	(文化課) ・ヤングアダルトコーナーの見直し、拡充 ・夏休み自由研究の資料、課題図書・指定図書の紹介 ・おすすめの本のコーナーの見直し	(文化課) ・ブックスタート事業による効果があり、赤ちゃん絵本の需要が増えた ・ヤングアダルトコーナーの拡充、図書資料の充実 ・夏休み自由研究の資料、課題図書・指定図書の紹介により利用者が増えた		(文化課) ・ヤングアダルト資料、自由研究資料の見直し ・市内小・中学校の夏休みの課題を把握して資料の充実を図る
	(8)子ども読書活動推進体制の整備	(文化課) 行政機関や学校、図書館、団体などが行う子どもを対象とした読書活動を充実させる	(文化課) 令和元年7月に関係各課に加え、学校・保育園、幼稚園・学童保育所などに調査対象を広げた対象に「子ども読書活動調査」を実施した内容を、10月の図書館協議会にて報告し、古賀市内の子ども読書活動の進捗状況の管理を行った。 令和2年度は関係各課及び読書ボランティア、子育てサロンなどを調査した。	(文化課) 第3次古賀市子ども読書活動推進計画に基づき、単年度ごとの進捗状況およびそれぞれの活動の成果と課題を把握することができた	(文化課) ・進捗状況の把握 ・課を超えて連携し読書活動を推進していく	(文化課) 毎年進捗状況の把握のため各課に呼び掛け子ども読書活動調査を行い、古賀市図書館協議会にて進捗状況の把握を行う 計画策定4年目にも調査を継続する予定